遊戯王 BLADE ACCELERATOR

STORM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遊戯王　ＢＬＡＤＥ　ＡＣＣＥＬＥＲＡＴＯＲ

【Ｎコード】
Ｎ３４１４Ｇ

【作者名】
ＳＴＯＲＭ

【あらすじ】
Ｄ・ホイーラーになるためにシティに訪れた御堂遊徒。だが、彼は自分の実力がどれほどのものか分からなかった。彼はデュエルアカデミアに入学することを決め、自分の実力を知り、更に強くなることを決意する。

DUEL　1　入学試験ー駆け抜ける剣（前書き）

第1話からオリカの乱用ですね。

DUEL　1　入学試験ー駆け抜ける剣

ここがデュエルアカデミアか。

オレは最近シティで流行ってるライディングデュエルをするために、このシティに来た。

だが、D・ホイールを持っていないどころか、デュエルの腕がどの程度のものなのかすら分からない。

だからオレはデュエルアカデミアで自分の実力を測りに来た。

今日が入学試験。

筆記は既に合格している。

問題は実技だ。

このデッキでどこまで通用するか。

「次、188番！」

説明しているうちにオレの番だな。

よし、頑張るぞ！

「188番、御堂遊徒、よろしくお願いします！」

「よし、これより入学試験を開始する！」

やっと始まるのか。
当然、教師なんだから強いんだよな、楽しみだ！

「「デュエル！」」

ライフは４０００形式。
え、何故かって？
８０００だと長いからだよ。
ライディングでも４０００が当たり前だし。

＜１ターン目＞

「オレのターン！」
ドローしたカードは＜サイクロン＞。
サイクロンは有名なカードだ。
魔法・罠カードを１枚破壊することができる速攻魔法。
シンプルで非常に強力。

「オレは＜ラック・ブレイダー＞を攻撃表示で召喚！」
これはオレの家に眠っていたカードだ。

ラック・ブレイダー
レベル４・地属性・戦士族
攻撃力１５００
守備力１２００
このモンスターが戦闘によってモンスターを破壊したとき、デッキからカードを１枚ドローすることができる。

リクルーターに対応している点でも非常に優れている。

「カードを1枚セットしてターンエンド」

＜1ターン目終了＞

御堂遊徒
ＬＰ　４０００
手札　４枚
モンスター　ラック・ブレイダー
魔法・罠　伏せカード1枚

教師
ＬＰ　４０００
手札　５枚
モンスター　なし
魔法・罠　なし

＜2ターン目＞

「私のターン、ドロー・・・＜剣闘獣アンダル＞を攻撃表示！」

市販のカードは説明を省く。
攻撃力と守備力だけは説明する。

攻撃力１９００の通常モンスター。

ラック・ブレイダーは間違いなく殺されるな。

「アンダルでラック・ブレイダーに攻撃！」

どうしようもない。
ラック・ブレイダーは破壊された。
そしてオレに４００ポイントのダメージ。

御堂遊徒　ＬＰ３６００

「カードを１枚セットして、ターンエンド」
「この瞬間、＜サイクロン＞を発動！今セットしたリバースカードを破壊する！」

破壊されたカードは＜聖なるバリアー ミラーフォース－＞。
危ない危ない。
このまま攻撃してたらどうなってた事やら。

＜２ターン目終了＞

御堂優徒
ＬＰ　３６００
手札　４枚
モンスター　なし
魔法・罠　なし

教師
ＬＰ　４０００
手札　４枚
モンスター　剣闘獣アンダル
魔法・罠　なし

＜3ターン目＞

「オレのターン、ドロー」
ドローしたカードは＜ブレイド・リボーン＞だ。
このカードはライフを８００ポイント払う事で墓地のブレイダーと名のついたモンスター１体を特殊召喚する通常魔法。

「オレは手札から＜ブレイド・リボーン＞を発動！このカードは、ライフを８００払う事で墓地のブレイダーと名のついたモンスター１体を特殊召喚する！蘇れ、＜ラック・ブレイダー＞！」

ラック・ブレイダーが特殊召喚された。

「だが、アンダルにはまだ攻撃力が足りないぞ？」

「このモンスターは自分フィールド上に存在するブレイダーと名のついたモンスターを１体リリースすることで特殊召喚することができる。現れよ、＜メタル・ブレイダー＞！」

メタル・ブレイダー
レベル６・地属性・戦士族
攻撃力２３００
守備力１５００
このモンスターは自分フィールド上に存在するブレイダーと名のついたモンスターを１体リリースすることで特殊召喚することができる。
このモンスターは召喚されたターン、攻撃することができない。

このモンスターが戦闘によってモンスターを破壊したとき、相手に５００ポイントのダメージを与える。
このモンスターが墓地に送られた時、デッキからブレイダーと名のついたモンスターを手札に加える。

「メタル・ブレイダーは召喚したターン、攻撃することができない。だが、オレはこいつを特殊召喚した。だからこいつは攻撃することができる！」
「デメリットを解消したのか、なかなかだ」
「まだだ、オレは手札から＜ブレイド・サーカス＞を発動！このカードは自分フィールド上に存在するブレイダーと名の付くモンスターをリリースして発動する。リリースしたモンスターのレベルの合計までデッキからモンスターを１体以上特殊召喚することができる」

オレがリリースしたのは＜メタル・ブレイダー＞
レベルは６だ。

「ロック・ブレイダーを二体特殊召喚する！」

ロック・ブレイダー
レベル３・地属性・戦士族
攻撃力　５００
守備力１５００
このモンスターが召喚・特殊召喚された時、相手のライフに５００ポイントのダメージを与える。

「ロック・ブレイダーが特殊召喚された時、相手に５００ポイント

のダメージを与える」
ロック・ブレイダーは二体。
「１０００ダメージか」
教師ＬＰ３０００
「さらに、メタル・ブレイダーが墓地に送られたことにより、デッキからブレイダーをサーチする。オレが選択するのは＜ガイア・ブレイダー＞だ。そして二体のロック・ブレイダーをリリースして＜ガイア・ブレイダー＞をアドバンス召喚！」

ガイア・ブレイダー
レベル７・地属性・戦士族
攻撃力２５００
守備力２０００
１ターンに１度、墓地に存在するブレイダーと名のついたモンスター１体を除外し、そのモンスターのレベル×２００ポイントのダメージを与えることができる。
このモンスターが戦闘によって相手モンスターを破壊したとき、その守備力分のダメージを相手に与える。

「ガイア・ブレイダーの効果発動、メタル・ブレイダーを除外！メタル・ブレイダーのレベル×２００ポイントのダメージを受けてもらう！ブレイド・バースト！」
「ぐあああああああ！！」

１２００ポイントのダメージ！

教師ＬＰ１８００

「止めだ、ガイア・ブレイダーの攻撃！ガイア・ブレイド！」

アンダルを撃破！

戦闘ダメージは６００

教師ＬＰ１２００

「まだだ、次のターンが残っている、次のターン私がシンクロ召喚すれば」

「残念ながら次のターンはない。ガイア・ブレイダーの効果発動、破壊したモンスターの守備力分のダメージを与える！ガイア・フレイム！」

「アンダルの守備力は１５００・・・と言うことは１５００ダメージ！？」

教師ＬＰ０

「流石だな、合格」

「オレの実力はこのレベルか。まあ、ここにいればレベルも上がっていくだろう」

そうしてオレはアカデミアに入学した。
恐らくここにははるかに強い先輩もいるだろう。
だが、オレはD・ホイーラーになるためにも負けられない。
勝ち続けるんだ！

ＤＵＥＬ　１　入学試験－駆け抜ける剣（後書き）

また連載しはじめたよ、この人。
見たいな目を向けられても仕方ありませんね、はい。
文句ならいくらでも聞きますので・・・。

DUEL　2　早朝一空を舞う科学の勇士

「遊徒、起きろ」
オレは昨日共に入学し、ルームメイトとなった御堂遊徒を起こしていた。
「う・・・九条？」
「お前に客だ」

「いや、別にこれと言って大した用事じゃないですけどね。入学試験のデュエル、最も少ないターンで勝利したプレイヤーを見てみたくて」

こいつがあの3ターンで決めたという奴か。
オレは5ターンもかかってしまったからな。
流石と言えば流石か？

「悪い、今眠いから・・・まだ5時じゃん、寝かせてくれよ」
そう言って遊徒は眠ってしまった。

「このまま帰ってもなぁ・・・あ、そうだ。君、デュエルしない？」
「オレか？」
「どんなデッキ使うのか知らないけどさ、早くやろう」
「別に構わないが」

オレ達は外に出た。

「ライフは４０００でいいな？」
「おう！」

＜１ターン目＞

「「デュエル！」」

「先攻はお前に譲る」
「うん、僕のターン、ドロー。手札から＜キラー・トマト＞を守備表示！ターンエンド！」

＜１ターン目終了＞

九条
ＬＰ　４０００
手札　５枚
モンスター　なし
魔法・罠　なし

生徒
ＬＰ　４０００
手札　５枚
モンスター　キラー・トマト

魔法・罠　なし

＜2ターン目＞

「ドロー。手札から＜ブレイブ・トレード＞を発動。このカードは手札のブレイブと名のついた機械族モンスターを1枚捨ててカードを2枚ドローする。オレは手札の＜サイバーブレイブ・ＡＮＧＥＬ＞を捨てる」

「サイバーブレイブ？聞いたこと無いモンスターだな」

「そして手札から＜死者蘇生＞を発動。先ほど墓地に送った＜サイバーブレイブ・ＡＮＧＥＬ＞を特殊召喚」

サイバーブレイブ・ＡＮＧＥＬ
レベル7・光属性・機械族
攻撃力２４００
守備力１０００
このモンスターの攻撃宣言時、相手フィールド上に存在するモンスターを1体選択し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与える。
このモンスターはカードの効果では破壊されない。

「ＡＮＧＥＬで攻撃。この瞬間、サイバーブレイブ・ＡＮＧＥＬの効果を発動。オレはキラー・トマトを選択。お前にはキラー・トマトの攻撃力分のダメージを受けてもらおう！」

「うぐ・・・やるな、君！」

生徒ＬＰ２６００

「一気に１４００ものダメージを」
「攻撃はまだ終わっていない。キラー・トマトに攻撃、ハイパー・ブレイズ！」
ＡＮＧＥＬの翼から沢山のレーザーがキラー・トマトに降り注ぐ。レーザーを受けたキラー・トマトは爆発した。

「キラー・トマトが戦闘によって破壊された時、デッキから攻撃力が１５００以下の闇属性モンスターを１体特殊召喚することができる。デッキから＜終末の騎士＞を特殊召喚！そして、終末の騎士の効果を発動。デッキから闇属性モンスターを１体墓地に送ることができる。僕はデッキから＜キラー・トマト＞を墓地に送る」

終末の騎士か。
これでだいたいの戦略は読めてきた。

「オレはカードを１枚セットして、ターンエンド」

＜２ターン目終了＞

九条
ＬＰ　４０００
手札　４枚
モンスター　サイバーブレイブ・ＡＮＧＥＬ
魔法・罠　１枚

生徒
ＬＰ　２６００

手札　５枚
モンスター　終末の騎士
魔法・罠　なし

＜３ターン目＞

「ドロー、終末の騎士をリリース。＜ゴーレム＞をアドバンス召喚！」
攻撃力２５００・・・光属性モンスターの効果を無効化する。
ＡＮＧＥＬの効果が無効になる。
ＡＮＧＥＬの破壊耐性も消えるか・・・。
「そして、手札から＜ダーク・アームド・ドラゴン＞を特殊召喚！」
やはりダムドか。
闇属性主軸のデッキに必ずと言っていいほど入っているカード。

「＜ダーク・アームド・ドラゴン＞の効果を発動！墓地の＜キラー・トマト＞を除外、ＡＮＧＥＬを破壊する！」
「＜ゴーレム＞の存在で破壊耐性が消えたからな。だが、リバースカードオープン、罠発動！＜ブレイブ・チェンジ＞！自分フィールド上に存在するブレイブと名のついた機械族モンスターを１体デッキに戻し、そのモンスター以外のブレイブと名のついた機械族モンスターを特殊召喚する！現れよ、＜サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ！＞」

サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ
レベル７・闇属性・機械族
攻撃力２５００
守備力１５００

このモンスターがモンスターを攻撃したとき、そのモンスターをダメージ計算を行わずに破壊することができる。
このモンスターはカードの効果では破壊されない。

「サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬは効果では破壊されない。ダムドの効果も無意味だ」
「ならば、ダーク・アームド・ドラゴンで攻撃！」

攻撃力の差は３００。
ＤＥＶＩＬの効果はこちらから攻撃した時しか発揮されない。
だが、

「手札から＜ライトブレイブ・ＦＥＲＲＥＴ＞の効果を発動！手札からこのカードを捨てることで自分フィールド上のブレイブと名のついたモンスターの攻撃力はライトブレイブ・ＦＥＲＲＥＴの攻撃力分アップする！ライトブレイブ・ＦＥＲＲＥＴの攻撃力は１７００！」

ライトブレイブ・ＦＥＲＲＥＴ
レベル５・地属性・機械族
攻撃力１７００
守備力１５００
手札のこのカードを捨てることで、自分フィールド上に存在するブレイブと名のついたモンスター１体の攻撃力はエンドフェイズまでこのカードの元々の攻撃力分アップする。
このカードはカードの効果では破壊されない。

サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ　攻撃力４２００
周りにフェレットっぽい機械がＤＥＶＩＬを囲む。
「ダーク・アームド・ドラゴンの攻撃は取り消せない。迎え撃て、ダーク・ウィング！」
黒い翼が大きく開かれる。
ダムドの攻撃を華麗に避け、そして後ろに回り込み、翼で囲み・・・
何があったのかよく分からないがダムドが消滅していた。
「ライフに１４００のダメージだ」
生徒ＬＰ１２００
「カードを１枚セットして、ターンエンド。まさかカルートみたいなカードがあるとは思わなかったよ」
「ああ、ただカルートと比べればサーチが困難なんだよ、このカードは」
＜３ターン目終了＞
九条
ＬＰ　４０００
手札　３枚
モンスター　サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ
魔法・罠　なし
生徒
ＬＰ　１２００

手札　３枚
モンスター　ゴーレム
魔法・罠　１枚

＜４ターン目＞

「オレのターン、ドロー。何もできないな。ＤＥＶＩＬでゴーレムに攻撃。ＤＥＶＩＬに攻撃されたモンスターは無条件で破壊される。」

ゴーレム撃破。

「カードを１枚セットして、ターンエンド」

＜４ターン目終了＞

九条
ＬＰ　４０００
手札　３枚
モンスター　サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ
魔法・罠　１枚

生徒
ＬＰ　１２００
手札　３枚
モンスター　なし
魔法・罠　１枚

＜５ターン目＞

「オレのターン、ドロー！手札から＜闇の誘惑＞を発動！カードを二枚ドロー、手札からゴーレムを除外する。手札１枚をコストに手札から＜Ｄ・Ｄ・Ｒ＞を発動！さっき除外したゴーレムを帰還させる！」

「同士討ちでも狙う気か？」

「そんなことはしないさ、ゴーレムをリリース、＜邪帝ガイウス＞をアドバンス召喚！」

邪帝ガイウスが現れた。
攻撃力２４００

ガイウスか。
ＤＥＶＩＬはやられたな。

「ガイウスの効果を発動、ＤＥＶＩＬを除外！さらにＤＥＶＩＬは闇属性！１０００ダメージも追加だ！」

九条ＬＰ３０００

「ガイウスでダイレクトアタック！」

九条ＬＰ６００

「ターンエンド。これで逆転だな！」

＜５ターン目終了＞

九条
ＬＰ　６００

手札　３枚
モンスター　なし
魔法・罠　１枚

生徒
ＬＰ　１２００
手札　２枚
モンスター　邪帝ガイウス
魔法・罠　１枚

＜６ターン目＞

「このデッキは重いからな。オレのターン、ドロー！手札から＜ブレイブ・トレード＞。手札の＜サイバーブレイブ・ＷＯＬＦ＞を捨て、カードを二枚ドロー」

よし、これで何とかなりそうだな。

「手札から＜異次元からの埋葬＞を発動。これにより、ＤＥＶＩＬは墓地に戻ってくる」
「死者蘇生か？・・・でも最初のターンに使ってたしなぁ」
「手札から魔法カード、＜リサイクル・ブレイブ＞を発動。このカードは墓地のブレイブと名のついた機械族モンスターを２体除外し、墓地のブレイブを蘇生する！オレはライトブレイブ・ＦＥＲＲＥＴとサイバーブレイブ・ＷＯＬＦを除外。舞い戻れ、サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ！！」

サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ、再臨。

「邪帝ガイウスに攻撃！行け、ＤＥＶＩＬ！デビルが攻撃したモンスターは無条件で破壊される！」

邪帝ガイウス撃破。

「まだだ、リバースカードオープン、罠発動！＜ブレイブ・チェンジ＞。このカードの効果はさっき使ったから分かるな？ＤＥＶＩＬをデッキに戻し、＜サイバーブレイブ・ＡＮＧＥＬ＞を特殊召喚！」

終わりだ！

「サイバーブレイブ・ＡＮＧＥＬでダイレクトアタック！ハイパー・ブレイズ！」

生徒ＬＰ０

「ありがとう、楽しかった」

「うん！それにしてもすごいね、そのデッキ！」

「ああ、これか。下級モンスターがいないからよく回らない時もある」

それでもこのデッキをくれた兄貴には感謝しないとな。

このデッキはオレにデュエルを教えてくれた。
ま、楽しくやれればいいかな。

DUEL　2　早朝ー空を舞う科学の勇士（後書き）

遊戯王のオリカ考えるの楽しー！w
すいません、真面目にやります・・・。

DUEL　3　登竜ー深海の狩人

ある日の午後、オレと九条は校内を回っていた。
場所を把握する目的だ。

「ん、あそこのデュエリストたちは」
いかにも不良って感じの奴らだった。
「あれはこの学校でＮｏ．２の鮫河輪弩じゃないか？」
「Ｎｏ．２って不良なのかよ！？」
「ああ、本当だ。なんならデュエルしてくればいいじゃないか」
まあ、それもいいかもしれないな・・・って滅茶苦茶見られてる！？
「どうやら喧嘩は避けられないみたいだな」
平然に言うなよ！？

「お前ら、何やってんだ？」
「いや・・・その・・・」
「こいつが輪弩さんとデュエルしたいそうです」
ちょ、九条！？
「まあ、この学校じゃデュエルがすべてだ。デュエルで勝てない奴は落ちこぼれるだけだしな。俺様とデュエルして勝てた奴は今年卒業のあいつしかいねぇから、待てば勝手に俺様が最強になるってことよ」
「それを聞いてのことです。こいつがオレの方が絶対に強いと」
言ってない、言ってないって！！
まあ、勝つ気ではいるけどさ。
「面白い奴だ。相手になってやるよ。その代り負けたら、お前のデッキを貰う！」
「え？」

まずいぞ、負けてはならない。
このデュエルだけは！

「「デュエル！」」

＜1ターン目＞

「先攻は俺様だ！ドロー、手札から＜ブラッド・シャーク＞を召喚！」
血にまみれた鮫が現れた。

ブラッド・シャーク
レベル４・闇属性・魚族
攻撃力２４００
守備力０
このモンスターが破壊された時、このモンスターの攻撃力分のダメージを受ける。

この効果でダメージを受ける時、手札からモンスター1体を墓地に送る事でダメージを無効にすることができる。

「レベル4で攻撃力2400！？」
「カードを1枚セットして、ターンエンド」

＜1ターン目終了＞

御堂遊徒
LP　4000
手札　5枚
モンスター　なし
魔法・罠　なし

鮫河輪弩
LP　4000
手札　手札4枚
モンスター　ブラッド・シャーク
魔法・罠　1枚

＜2ターン目＞

「オレのターン、ドロー！＜ラック・ブレイダー＞を召喚！＜ラック・ブレイダー＞をリリース、＜メタル・ブレイダー＞を特殊召喚！カードを2枚セットして、ターンエンド」

たった100の差で勝てない・・・。
まずい、これは・・・。

＜2ターン目終了＞

御堂遊徒
ＬＰ　４０００
手札　３枚
モンスター　メタル・ブレイダー
魔法・罠　２枚

鮫河輪弩
ＬＰ　４０００
手札　４枚
モンスター　ブラッド・シャーク
魔法・罠　１枚

＜3ターン目＞

「俺様のターン！ドロー、＜ブラッド・シャーク＞をリリース、＜ダイアモンド・シャーク＞をアドバンス召喚！」

ダイアモンド・シャーク
レベル６・地属性・魚族
攻撃力２４００
守備力２０００
１ターンに１度だけ、手札を１枚捨てることで相手フィールド上のカードを破壊することができる。
この効果にチェーンして魔法・罠・効果モンスターの効果を発動することはできない。

「<ダイアモンド・シャーク>の効果を発動、手札1枚をコストにお前の<メタル・ブレイダー>を破壊する」
メタル・ブレイダーはダイアモンド・シャークに噛み砕かれた。
「<メタル・ブレイダー>の効果発動！デッキからブレイダーと名のついたモンスターを1枚手札に加える。オレは<シェル・ブレイダー>を手札に加える」

「まだ俺様の攻撃は終わっちゃいねぇ、ダイアモンド・シャークでダイレクトアタック！」
「リバースカードオープン、罠カード発動！<ブレイドガード>、手札のブレイダーと名のついたモンスターをコストに攻撃を防ぎ、カードを1枚ドローする。<シェル・ブレイダー>を墓地に送る」
「ちっ、ターンエンド」

<3ターン目終了>

御堂遊徒
ＬＰ　４０００
手札　４枚
モンスター　なし
魔法・罠　１枚

鮫河輪弩
ＬＰ　４０００
手札　３枚
モンスター　ダイアモンド・シャーク
魔法・罠　１枚

＜4ターン目＞

「オレのターン、ドロー！」

来たっ！

「手札から速攻魔法＜フォーチュンサイクロン＞を発動！このカードはフィールド上の魔法・罠カードを1枚破壊し、破壊したカードのコントローラーはカードを1枚ドローする。オレが選択するのはオレのリバースカード！」

「カードをドローしたいのか・・・だったら2：1交換で1枚のディスアドバンテージが・・・やはり目的はあの伏せカード・・・」

「そう、今破壊した罠カード＜デルタ・ブレイド＞は破壊された時に三体の＜ブレイドトークン＞を特殊召喚する。ブレイドトークンは攻撃力と守備力が0な代わりに、自身をコストに魔法・罠カード1枚を破壊することができる！1体目のトークンをリリースして、そのカードを破壊する！」

「させるかぁ！罠カード、＜大滝を溯る鮫＞を発動！このカードは自分フィールド上に存在するシャークと名のついたモンスターをリリースして発動！手札またはデッキから＜ドラゴン・シャーク＞を特殊召喚する！」

発動を宣言した瞬間、巨大な滝が現れ、そこをダイアモンド・シャークは登り始めた。

そして一番上にたどり着いた瞬間、ダイアモンド・シャークは輝き、龍のような姿になった。

ドラゴン・シャーク

レベル8・風属性・魚族

攻撃力３０００
守備力２５００
このモンスターは通常召喚できない。
このモンスターは「大滝を溯る鮫」の効果のみで特殊召喚することができる。
このモンスターがフィールド上の存在する限り、自分のターンのエンドフェイズ時に自分フィールド上に存在するモンスターを１体リリースしなければならない。
このモンスターの攻撃力は自分の墓地に存在するシャークと名のついたモンスターの数×５００ポイントアップする。
このモンスターがカードの効果によって破壊される代わりに手札を１枚捨てることができる。

「俺様の墓地にはシャークが二体。よって攻撃力は４０００！」
「攻撃力４０００！？」

ダメだ、手札のガイア・ブレイダーじゃ勝てない。

・・・手札にいいカードは・・・あ！！

「手札から＜死者蘇生＞を発動！オレはお前の墓地の＜ダイアモンド・シャーク＞を蘇生させる！」
「墓地のシャークを減らして攻撃力を下げたか。だが、まだ攻撃力は３５００だ！ダイアモンド・シャークの効果でも手札を捨てることで破壊を回避できる。無駄だ！」

まだ辛い・・・。
でも、さっき＜フォーチュン・サイクロン＞でドローしたカードが

オレに勝利をくれる！

「手札からフィールド魔法＜ブレイド・サンクチュアリ＞を発動！」

これは剣の聖域。

全ての剣士はそこでは本来以上の力を発揮する。

「二体のトークンをリリース。出でよ、オレのエースモンスター！

＜ガイア・ブレイダー＞！！」

ガイア・ブレイダーの攻撃力は２５００。

これではまだ勝てない。

だが、聖域がある！

「＜ブレイド・サンクチュアリ＞が存在する限り、フィールド上のブレイダーは攻撃力が５００ポイントアップする」

ガイア・ブレイダー攻撃力３０００

「そして最後の手札、＜ブレイド・リボーン＞！ライフ８００をコストに、墓地から＜シェル・ブレイダー＞を特殊召喚する！」

御堂遊徒ＬＰ３２００

シェル・ブレイダー

レベル６・地属性・戦士族

攻撃力１０００

守備力２５００

このモンスターが戦闘によって破壊された時、自分のデッキからレ

ベル６以下のブレイダーと名のついたモンスターを特殊召喚することができる。
このモンスターは魔法・罠カードの効果を受けない。

「シェル・ブレイダーは魔法・罠カードの効果を受けない。だから攻撃力は上がらない。いくぞ、バトル！シェル・ブレイダーでドラゴン・シャークに攻撃！！シェル・ハリケーン！」
「は？」

御堂遊徒ＬＰ７００

シェル・ブレイダーは当然の如く破壊される。
戦闘ダメージも大きい。
だが、狙いは戦闘破壊。
ハイリスクだが、ハイリターンだ！

「シェル・ブレイダーが戦闘によって破壊された時、デッキからレベル６以下のブレイダーを特殊召喚することができる。お前が勝利への布石だ、＜パワー・ブレイダー＞！！」

パワー・ブレイダー
レベル５・地属性・戦士族
攻撃力１８００
守備力１８００
このモンスターが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在するブレイダーと名のついたモンスターの攻撃力は５００ポイントアップする。
このモンスターが破壊された時、フィールド上のカードを１枚破壊

することができる。

「パワー・ブレイダーの出現により、ガイア・ブレイダーの攻撃力は３５００になる！」
「ドラゴン・シャークと並んだ！？」
「いけ、ガイア・ブレイダー！ドラゴン・シャークに攻撃、ガイア・ブレイド！」

ガイア・ブレイダーの剣がドラゴン・シャークの喉を切り裂いた。
だが、それと同時にドラゴン・シャークのヒレに切り裂かれ、ガイア・ブレイダーも破壊された。
「くっ、ドラゴン・シャーク・・・よくも」

「オレの攻撃はまだ残っている、ダイアモンド・シャークで攻撃！」
「ぐあっ、ダイアモンド・シャークめ・・・」

鮫河輪弩ＬＰ１６００

「これで終わりだ、パワー・ブレイダーで攻撃、パワー・エッジ！」
パワー・ブレイダーの攻撃が輪弩に襲いかかる。

鮫河輪弩ＬＰ０

「くっ・・・ドラゴン・シャークを倒したのはお前が二番目だ・・・俺様もまだまだ修行が足りねぇみてぇだ。後輩に負けてらんねぇ！

俺様も不良なんかやめてもっと強くなる！それでいつかお前を倒してやる！」
「よかったじゃねぇか、遊徒」
「ふざけんな！オレがあそこでブレイド・サンクチュアリをドローしてなかったらあのまま流されて負けてたぞ！？」

九条はなんてのんきなんだ。
こっちはデッキがかかっていたというのに・・・。
「ほら、これを持って行け」
輪弩からカードを渡された。
「これは・・・」
「ブレイダー・シャーク。貫通効果を持ったレベル４・地属性・魚族。ブレイダーだからお前のデッキにも対応していると思ってな。戦利品だ、大事にしろよ」

ブレイダー・シャーク・・・か。

「ありがとう、大切に使わせてもらうよ」

このとき、輪弩とオレにわずかな友情が芽生えた。

その証のカードをオレはそっとデッキに加えたのであった。

ＤＵＥＬ　４　銃姫ー狂気の姫君

「シンクロ召喚、＜ガンナー・プリンセス＞！」

「うわあああああああああああああああああああああああああ！！！！」

生徒ＬＰ０

「あなたじゃ足りない・・・もっと私を楽しませてくれる人はいないのかしら」

冷たい目をした少女は倒された生徒を踏みつけてそう言った。

まるで自分が姫だと言っているかのように。

「おい、九条！またニュースが入ったぞ！」

「例の姫とやらのか？」

「ああ、今年オレたちと一緒に入ってきた桜崎姫乃と言うらしい」

さっき説明した桜崎姫乃とか言う奴は、ここ最近男子生徒にデュエ

ルを挑み、負けたら下僕になれという条件でデュエルして、未だかつて無敗を誇っている女子生徒。
男子生徒が勝ったら好きにさせてくれると言うが・・・。
先日、あの鮫河輪弩も彼女にデュエルを挑み、敗北した。
遊徒は輪弩から聞いたらしい。

「そろそろ1年男子生徒も尽きるころだな。このまま2年に手を出すか」
「これって、オレたちが狙われるフラグ立ってねぇか？」

その時、誰かがオレたちの部屋に入ってきた。

「九条さん、逃げて！」

こいつは・・・入学した次の日にデュエルしたダムドの生徒。
「姫がくる！オレが食い止めている間に、逃げて！」
こ、こいつ・・・オレはいい友達を持ったな・・・。
「お前、名前は？」
名前を知らないことに気付き、オレは彼に名を尋ねる。
「あ、暗村龍です！」
「暗村、お前は下がってろ、オレが倒す」
「そ、そんな・・・犠牲になるのは僕だけで」
「オレは負ける気はない」

暗村の予告通り、姫とやらは来た。

「貴方達で最後よ、あと三回デュエルするだけでアカデミアの一年男子はみんな私のもの」
「残念ながらオレを倒してからじゃなければ遊徒と暗村には手は出させない」
「ふふふ、正義感の強い子ね・・・かかってきなさい」
「これは正義感じゃない。ただ、オレは・・・遊徒と暗村がオレが負けた時どんな顔をするか楽しみなだけだ」
オレのモットーは偽善者だ。

「「デュエル！」」

＜1ターン目＞

「先攻は私、ドロー。手札から＜プリンセス・マジシャン＞を召喚」
王女のような杖を持ったモンスターが現れた。

プリンセス・マジシャン
レベル４・光属性・魔法使い族
攻撃力１６００
守備力１０００
このモンスターが存在する限り、フィールド上に存在するプリンセスと名のついたモンスター以外のモンスターは効果を発動することができない。

「カードを1枚セットして、ターンエンド」

＜1ターン目終了＞

九条
ＬＰ　４０００
手札　５枚
モンスター　なし
魔法・罠　なし

桜崎姫乃
ＬＰ　４０００
手札　４枚
モンスター　プリンセス・マジシャン
魔法・罠　１枚

＜2ターン目＞

「オレのターン、ドロー。手札から＜ブレイブ・トレード＞を発動。手札の＜サイバーブレイブ・ＫＮＩＧＨＴ＞を墓地に送り、カードを二枚ドロー」
ＫＮＩＧＨＴの説明は楽しみにしていてくれ。
いつか出るかもしれないから。
「続けて魔法カード、＜ネイキッド＞を発動。このカードは、ライフ８００をコストにデッキに存在するネイキッドブレイブと名のついたモンスターを1枚手札に加える。オレは＜ネイキッドブレイブ・ＨＯＬＬＹ＞を手札に加える」

九条ＬＰ３２００

「墓地の＜サイバーブレイブ・ＫＮＩＧＨＴ＞を除外して、＜ネイキッドブレイブ・ＨＯＬＬＹ＞を特殊召喚」

墓地から武装を解除したサイバーブレイブが現れた。
このモンスターはは武装で抑えられていたサイバーブレイブの能力を開放するモンスター。
剥き出しの姿から彼らはネイキッドブレイブと呼ばれる。

「なんなのよ、そのモンスター？」
「武装を解除したサイバーブレイブだ。ＨＯＬＬＹの攻撃力は除外したモンスターの攻撃力で決まる」
「除外したモンスターは＜サイバーブレイブ・ＫＮＩＧＨＴ＞・・・攻撃力は？」

ネイキッドブレイブ・ＨＯＬＬＹ
レベル１０・光属性・機械族
攻撃力？
守備力？
このモンスターは通常召喚できない。
墓地のサイバーブレイブと名のついた光属性モンスター１体を除外した時のみ特殊召喚することができる。
このモンスターの攻撃力と守備力は除外したモンスターの数値となる。
このモンスターはカードの効果では破壊されない。

「ＫＮＩＧＨＴの攻撃力は２５００。よってＨＯＬＬＹの攻撃力は２５００となる」
「何のためにわざわざそんなことするのよ、＜死者蘇生＞を使った方がモンスター効果も使えるのに」
「ま、ちょっとした戦略さ。手札から＜ネイキッド・チャージ＞を発動。フィールド上にネイキッドブレイブが存在するとき、オレはカードを二枚ドローする」
目的はこれだ。
あと、手札に死者蘇生がなかったってのもあるが。
ネイキッド・チャージはノーコストで２ドローだからアドバンテージが稼げる。
これで手札は６枚。

「いくぞ、＜ネイキッドブレイブ・ＨＯＬＬＹ＞で＜プリンセス・マジシャン＞を攻撃！」
「ふふふ、速攻魔法、＜ディメンション・マジック＞を発動！＜プリンセス・マジシャン＞をリリースして、手札から＜プリンセス・ビショップ＞を守備表示で特殊召喚！そして＜ディメンション・マジック＞の追加効果。＜ネイキッドブレイブ・ＨＯＬＬＹ＞を破壊する」
「・・・＜ネイキッドブレイブ・ＨＯＬＬＹ＞はカードの効果では破壊されない」

プリンセス・ビショップ
レベル８・闇属性・魔法使い族
攻撃力２２００
守備力２８００
１ターンに１度だけ、手札からプリンセスと名のついたレベル４以

下のモンスターを特殊召喚することができる。
１ターンに１度だけ、手札を１枚捨てることでデッキからプリンセスと名のついたモンスターを手札に加える。

これまた大きなモンスターだな。
姿形はＨＯＬＬＹより少し小さい程度だが・・・って、ＨＯＬＬＹも人型故、オレと同じくらいの身長だ。

「対象が消えたことにより、オレは攻撃を取り消す。カードを２枚セットしてターンエンド」

＜２ターン目終了＞

九条
ＬＰ　３２００
手札　４枚
モンスター　ネイキッドブレイブ・ＨＯＬＬＹ
魔法・罠　２枚

桜崎姫乃
ＬＰ　４０００
手札　３枚
モンスター　プリンセス・ビショップ
魔法・罠　なし

＜３ターン目＞

「私のターン、ドロー。プリンセス・ビショップの効果発動。私は手札の＜ライトニング・ボルテックス＞を墓地に送り、＜プリンセス・ナイト＞をサーチ。＜プリンセス・ナイト＞を召喚」

剣と盾を持った凛々しい顔の姫が現れた。

プリンセス・ナイト
レベル３・光属性・戦士族
攻撃力１４００
守備力１２００
このモンスターの召喚に成功したとき、デッキからプリンセスと名のついたチューナーを手札に加える。

「＜プリンセス・ナイト＞の効果発動！デッキからプリンセスと名のついたチューナーを手札に加える。＜プリンセス・チューナー＞を手札に加える！そしてビショップの効果！チューナーモンスター、＜プリンセス・チューナー＞を特殊召喚！」

プリンセス・チューナー
レベル４・光属性・戦士族／チューナー
攻撃力１４００
守備力１０００
このモンスターが破壊された時、カードを１枚ドローする。

「レベル３、＜プリンセス・ナイト＞に、レベル４、＜プリンセス・

チューナー＞をチューニング！」

「シンクロ召喚か！？」

「魔弾を操りし魔性の姫、今ここに現れよ！シンクロ召喚！解き放て、＜ガンナー・プリンセス＞！！」

ぜってぇボスだ、こりゃ。

出てきた瞬間ドレスの中に手を突っ込んで太ももにかけてあった銃を取り出したよ。

「すっげぇ、エロいよこのモンスター！」

「太ももが見えたな、うん。綺麗な色をしていた」

ギャラリーうぜぇ・・・。

ガンナー・プリンセス
レベル７・闇属性・戦士族／シンクロ
攻撃力２４００
守備力２０００
このモンスターが戦闘を行う場合、手札を１枚捨てることでそのバトルのみ、このモンスターの攻撃力は１０００ポイントアップする。
このモンスターが戦闘によって相手モンスターを破壊したとき、相手ライフに１０００ポイントのダメージを与える。
このモンスターが戦闘によって相手モンスターを破壊したターンのエンドフェイズ、自分はカードを１枚ドローする。

「さらに魔法カード、＜姫の連撃＞を発動。自分フィールド上に存

在するプリンセスと名のついたモンスターを1体選択する。自分フィールド上のモンスターを1体リリースし、そのモンスターは1度のバトルフェイズバトルフェイズに2回攻撃できる！さらにこの効果でリリースしたモンスターがプリンセスであれば私はカードを1枚ドローすることができる！＜プリンセス・ビショップ＞をリリースし、＜ガンナー・プリンセス＞は2回攻撃できるわ！さらに1枚ドロー！」

「九条さん！」
「ん、なんだ？」
「大丈夫ですか？」
「ん、このままじゃ負けるな」

「バトル！＜ガンナー・プリンセス＞で攻撃！このの瞬間、手札を1枚捨てて攻撃力を１０００ポイントアップさせる。プリンセス・マグナム！」
「ＨＯＬＬＹ・・・」
ＨＯＬＬＹが破壊された・・・。
そしてオレに９００の戦闘ダメージ。

九条ＬＰ２３００

「さらに＜ガンナー・プリンセス＞の追加攻撃！」
「リバースカードオープン、罠発動！＜ブレイブ・シグナル＞。戦闘によってブレイブが破壊された時、デッキからブレイブを呼び出す。こい、＜サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ＞！！」

ＤＥＶＩＬ、お前だけが頼りだ。

攻撃力は２５００。
普通に戦えばＤＥＶＩＬは負けないが・・・。

「ガンナー・プリンセスの攻撃は続くわ！手札を1枚捨てて攻撃力を１０００ポイント上昇！プリンセス・マグナム！」

ガンナー・プリンセス　攻撃力３４００ＶＳサイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ　攻撃力２５００

ＤＥＶＩＬ・・・。

「戦闘ダメージは９００、さらに効果で１０００ポイントのダメージを受けてもらうわ！」

九条ＬＰ４００

「九条さんまだダメージを与えてないのにもうライフが４００しかない！」

「エンドフェイズ時、ガンナー・プリンセスの効果でカードを1枚ドロー。さあ、あなたのターンよ」

随分長い3ターン目でした。
なお、ガンナー・プリンセスのドロー効果は重複しない。

＜3ターン目終了＞

九条

ＬＰ　４００
手札　４枚
モンスター　なし
魔法・罠　１枚

桜崎姫乃
ＬＰ　４０００
手札　２枚
モンスター　ガンナー・プリンセス
魔法・罠　なし

次回へ続く

DUEL　5　煉獄ー地獄の勇士

前回のあらすじ

アカデミア一年男子生徒を次々と倒している女子生徒、桜崎姫乃。彼女の魔の手から二人の友人を守るため、九条はデュエルを挑んだ。だが、九条は1度もダメージを与えることができないまま、ライフを４００にされてしまった。

九条
ＬＰ　４００
手札　４枚
モンスター　なし
魔法・罠　１枚

桜崎姫乃
ＬＰ　４０００
手札　２枚
モンスター　ガンナー・プリンセス
魔法・罠　なし

「まずいぞ、九条が負けたら・・・」
「その時は僕が戦います、それでも勝てなかったら・・・遊徒さん、お願いします」
「おい、オレが負けると決まったわけじゃない」
本当に、こいつらは応援する気があるのだろうか。
「そうだ、カードを信じれば答えてくれるはずだ！」
「分かっている」

＜４ターン目＞

「オレのターン・・・」

このドローで攻撃をしのぐカードが来ないと・・・。

「ドロー・・・ふふふ、カードはオレに答えてくれたようだ。手札から、＜ブレイブ・トレード＞を発動！＜サイバーブレイブ・ＡＮＧＥＬ＞を墓地に送り、カードを二枚ドロー」

よし、これであのカードが使える。

「手札から、＜リサイクル・ブレイブ＞を発動。このカードは墓地のブレイブを２体除外し、墓地のブレイブを１体特殊召喚する。オレはＡＮＧＥＬとＨＯＬＬＹを除外し、ＤＥＶＩＬを蘇生させる！」

舞い戻れ、我が剣よ！

オレの主力モンスターだ！

「＜サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ＞を特殊召喚、そしてバトル！ＤＥＶＩＬで＜ガンナー・プリンセス＞に攻撃！」
「ふふふ、＜ガンナー・プリンセス＞の効果を忘れたの？手札を１枚捨てることで攻撃力が１０００ポイントアップするのよ？」
「ＤＥＶＩＬは攻撃したモンスターを無条件で破壊する」
「え、ちょっと、何それ！？」

ガンナー・プリンセス、撃破。
「ガンナー・プリンセスが・・・」

「カードを１枚セットし、ターンエンド」

＜４ターン目終了＞

九条
ＬＰ　４００
手札　３枚
モンスター　サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ
魔法・罠　２枚

桜崎姫乃
ＬＰ　４０００
手札　２枚
モンスター　なし
魔法・罠　なし

＜５ターン目＞

「私のターン、ドロー・・・きたっ！手札から＜死者蘇生＞！！」
なっ！！
「蘇らせるのは勿論、＜ガンナー・プリンセス＞！！」
・・・またでたよ・・・。

「＜ガンナー・プリンセス＞で攻撃！手札をコストに攻撃力を上昇させる、これで止めよ！」
「まだだ、リバースカードオープン、＜和睦の使者＞！このターンの戦闘ダメージは０になる！そしてモンスターも戦闘では破壊されない」

このターンは耐え抜いた・・・。
まさか戻ってくるとは思わなかった・・・。

「私はカードを1枚セットして、ターンエンド」

＜5ターン目終了＞

九条
ＬＰ　４００
手札　３枚
モンスター　サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ
魔法・罠　１枚

桜崎姫乃
ＬＰ　４０００
手札　なし
モンスター　ガンナー・プリンセス
魔法・罠　１枚

＜6ターン目＞

「オレのターン、ドロー・・・今はこれを使わなきゃ勝てない・・・か」

「なに、まだ秘策でもあるの？」

「オレは手札から魔法カード、＜サイバーブレイブ・エヴォリューション＞を発動。このカードは手札を1枚捨てることで自分のデッキに存在するレベル9のサイバーブレイブと名の付くモンスターを手札に加える。オレは＜サイバーブレイブ・DEVIL・INFERNO＞をサーチ」

これはオレの切り札だ。

本当なら使いたくはなかったんだが・・・。

「行くぞ、＜サイバーブレイブ・DEVIL＞をリリース！手札から＜サイバーブレイブ・DEVIL・INFERNO＞を特殊召喚！このモンスターが攻撃する時、フィールド上のカードを全て破壊する！」

「えええ！？それはさせない、リバースカードオープン、ライフを半分払い、カウンター罠＜神の宣告＞！！」

桜崎姫乃LP2000

そんなもので無効にできると思っているのか。

オレはこれも全て対策しておいた。

「ならばこちらもカウンター罠、＜ブレイブ・カウンター＞を発動。墓地のブレイブ1体を除外し、魔法・罠・効果モンスターの効果の発動と効果を無効にし、破壊する！」

「えええ！？だってさっきリサイクルなんとかで除外したじゃん！」
「墓地にはちゃんといるぞ、さっきリリースした＜サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ＞がな！効果が処理され、＜神の宣告＞は無効となる！」
そして現れよ・・・我が最強の悪魔よ！
「＜サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ・ＩＮＦＥＲＮＯ＞！！」

サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ・ＩＮＦＥＲＮＯ
レベル９・闇属性・機械族
攻撃力３５００
守備力２５００
このモンスターは通常召喚できない。
自分フィールド上に表側表示の「サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ」１体のみの場合、「サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ」をリリースした場合のみ特殊召喚することができる。
このモンスターの攻撃宣言時、このカード以外のフィールド上の全てのカードを破壊する。
このモンスターはカードの効果では破壊されない。
このカードがフィールドを離れた時、自分はこのモンスター攻撃力分のダメージを受ける。

「終わりだ、ＩＮＦＥＲＮＯで攻撃、・・・このの瞬間、＜サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ・ＩＮＦＥＲＮＯ＞の効果発動。フィールド上のカードを全て破壊する！ダーク・フェザー・サンクチュアリ！」

この効果であっても、＜サイバーブレイブ・ＤＥＶＩＬ・ＩＮＦＥＲＮＯ＞だけは破壊されない。

「ちょ、待って！？」

「オレは待たない。勝利を手にするためには！トドメだ、ＩＮＦＥＲＮＯでダイレクトアタック！インフェルノ・デスサイズ！」
手に持った大鎌で姫を斬りつけた。

桜崎姫乃ＬＰ０

「あそこで神宣を使ってなかったらライフは５００残ってた」
「どうせ無駄だったよ。次のカードはモンスターカード。効果で破壊される」
「久々に本気のデュエルができた。ありがとう」
オレは姫乃の小さな頭を撫でた。
「ほら、早くしなさい。わ、私の身体・・・自由にしていいから」
「ふう、オレはそんなことのためにデュエルしたんじゃない。その代り、もうこんなことは止めろよ。一応国には人権というものがあ

ってな」
「う、うん、分かった！」
姫乃はオレの顔を見上げてニコッと笑った。

「・・・なんかいい雰囲気じゃない？」
「ん、そうか？」
「遊徒さんは何も感じないんですか？」
「え、何が？」

「・・・ダメだ、この人こんなことについていけてない」
暗村はひとり、そう呟いた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3414g/

遊戯王 BLADE ACCELERATOR

2010年11月12日11時02分発行